

第2章 立地適正化計画の基本的な方針

1 目指すべき都市構造

立地適正化計画は、都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導しつつ、その周辺や公共交通の沿線に居住を誘導し、それらを公共交通ネットワークで結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めることで、将来にわたり必要な都市機能を維持できる人口密度を維持し、日進市都市マスタープランで掲げる「将来都市構造」を実現するものです。

本市では、人口が増加している状況ではありますが、長期的には人口減少に転じることが予測されています。

このことから、一定のエリアに居住を誘導しながら人口密度を維持することにより、医療・福祉・子育て支援・商業等の生活サービスを持続的に確保するとともに駅周辺等の生活利便性の高い拠点に都市機能を誘導し、それらを公共交通のネットワークで結ぶことでアクセスの利便性が高い、持続可能なまちづくりを目指していきます。



資料：日進市都市マスタープラン

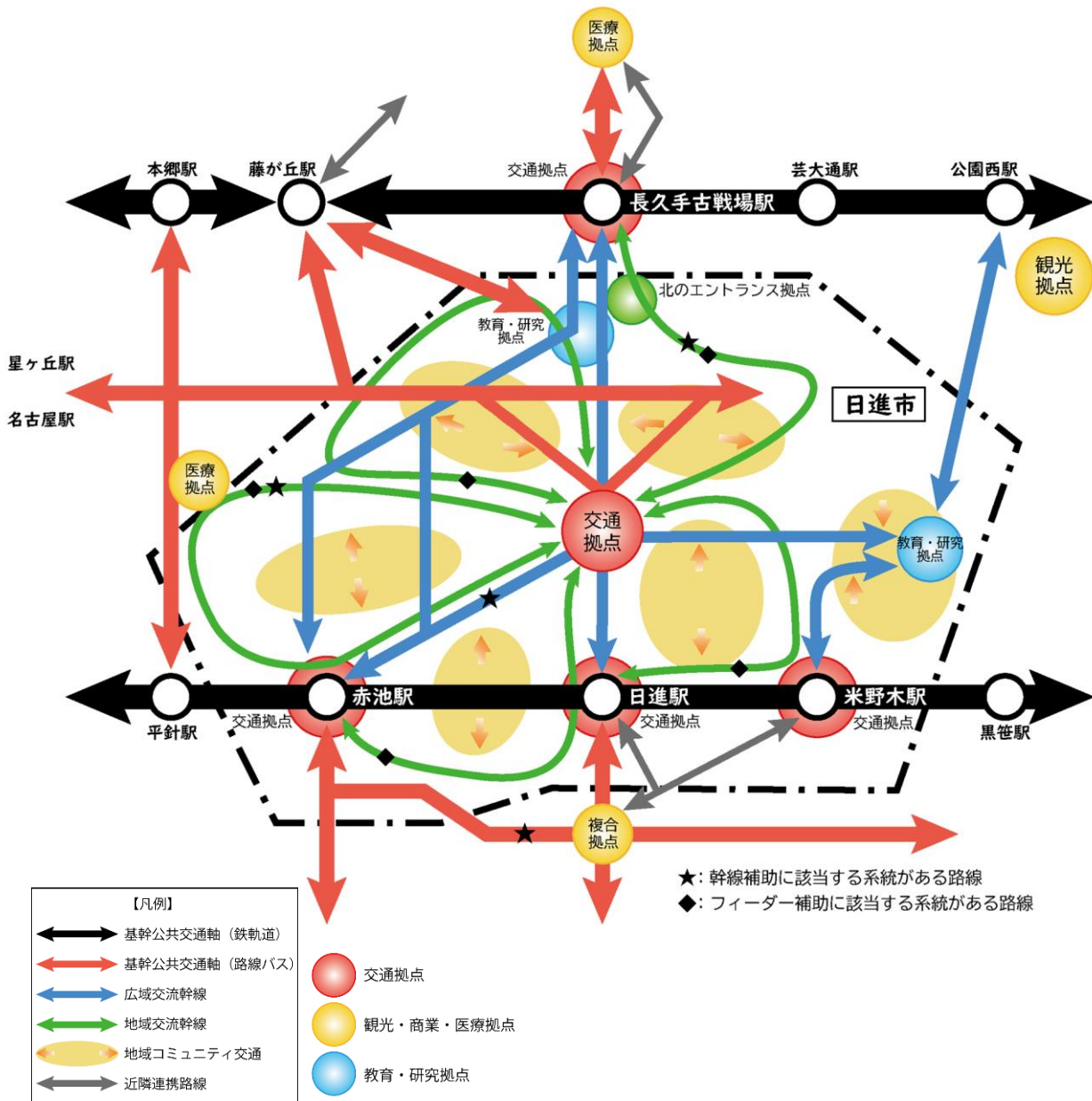
図 2-1 将来都市構造図

2 地域公共交通のネットワーク

鉄道路線では、市内にある3つの鉄道駅（赤池駅、日進駅、米野木駅）と、周辺市に存在する鉄道駅が、市内居住者にとって名古屋市や豊田市方面への広域的な移動手段として機能しています。また、五色園や香久山、竹の山周辺の住宅地においては、路線バスが名古屋市方面への移動手段として重要な役割を果たしています。

こうした基幹的な公共交通軸は市の南北に存在し、東西方向へ運行されていることから、市内の南北方向への移動や市の中心部における東西方向の移動においては、幹線機能を有したバス路線を配置することで、市民の比較的広域な移動需要に対応した公共交通ネットワークを形成していきます。

また、くるりんばすは、一定程度の幹線的な機能に加え、地域事情に密着したきめ細やかな移動サービスを提供していくことにより、市内各地を公共交通で移動できるネットワークを形成していきます。



資料：日進市地域公共交通計画

図 2-2 地域公共交通の将来ネットワークイメージ

3 立地適正化計画の方針

日進市では立地適正化計画の方針として、第1章8で整理した「都市づくりの課題整理」を基に、「居住誘導」「都市機能誘導」「交通ネットワークの強化」の3つの視点に分けて、基本的な方針を定めます。「防災」の視点については、第7章にて「防災指針」を定めます。

